

2月16日(土)

第3会場 8:30~10:00

シンポジウム5

MD-MPジョイントシンポジウム:遠隔モニタリングの活用

座長 吉田 幸彦 名古屋第二赤十字病院循環器センター内科
武田 章数 北里大学病院 ME 部

演者

1. 遠隔モニタリングの医学的有用性
渡邊 英一 藤田医科大学循環器内科
2. 疾患管理における遠隔モニタリングの応用
及川 淳 北里大学医学部循環器内科学
3. デバイス管理における遠隔モニタリングの有用性
柴田 幸美 近畿大学医学部附属病院臨床工学部
4. 疾患管理における遠隔モニタリングの有用性
杉浦 裕之 名古屋第二赤十字病院臨床工学課
5. デバイスナースの役割
黒滝 亜沙子 名古屋第二赤十字病院看護部

デバイス関連業務は、外来や手術などの院内業務のみならず、遠隔モニタリングを活用した在宅医療がある。近年のデバイスは、デバイス管理情報、不整脈情報、心不全情報など早期に医療介入が必要な項目も含まれており、それらのデータを遠隔モニタリングで随時把握できることは、生命予後に関するエビデンスもある。そのため遠隔モニタリングの重要性は高く、また診療報酬改定により遠隔モニタリング加算が増収になることから、遠隔モニタリングの導入が盛んに行われている。遠隔モニタリング業務は、多職種で係わる必要があり、医師による診療、各メーカーの遠隔モニタリングの特徴とデバイスの特徴を把握した臨床工学技士、遠隔モニタリングを活用した看護アプローチ、データ管理方法までさまざまである。そこで今回、遠隔モニタリング活用ポイントをご紹介いただき、デバイス業務における在宅医療の発展に足がかりとなるようなシンポジウムとしたい。

第3会場 10:00~11:30

シンポジウム6

MD-MPジョイントシンポジウム:デバイスMRI撮像の諸問題

座長 渡邊 英一 藤田医科大学循環器内科
植田 隆介 近畿大学医学部奈良病院 ME 部

演者

1. MRI 撮像フローの作成と問題点
武田 章数 北里大学病院 ME 部